

「博士課程教育リーディングプログラム」中間評価結果

機関名	東京工業大学	整理番号	G01
プログラム名称	グローバルリーダー教育院		
プログラム責任者	丸山 俊夫	プログラム コーディネーター	佐藤 勲

◇博士課程教育リーディングプログラム委員会における評価（公表用）

【総括評価】

一部で計画と同等又はそれ以上の取組もみられるものの、計画を下回る取組であり、本事業の目的を達成するには、助言等を考慮し、一層の努力が必要である。

【コメント】

リーダーを養成する学位プログラムの確立については、「道場」方式を導入して人間力の涵養を目指すという特色ある取組を行っており、積極的で活発な学生が育っている点は評価できる。プログラムとしては一定の成果を挙げているが、一方で「オールラウンド型」のプログラムとしての特色が十分に発揮されているかどうかについては物足りなさが残る。

産学官民参画による修了者のグローバルリーダーとしての成長及び活躍の実現性については、道場エクスカッションやオフキャンパス教育等を通じて着実にレベルアップが図られており、十分に評価できるとともに今後の一層の充実が期待される。

グローバルに活躍するリーダーを養成する指導体制の整備について、道場主の熱意は評価できるものの、本プログラムへの理解・協力が全学の教員にあまり浸透していないという懸念がある。全学的な理解を浸透させる一層の努力が求められる。

優秀な学生の獲得については、志願倍率が比較的高く、選抜合宿を実施するなど、優れた取組が見られる。しかし、本プログラムでは一橋大学との連携により文理共鳴の理念の実現を図ることとしているが、一橋大学からの部分的な学期参加の学生は増えているものの、修士・博士課程の全学期を通じて参加する学生が平成 27 年度の 5 期生ではゼロとなっている。現状では、当初の申請目的が部分的にしか実現されておらず、抜本的な改善策が必要である。

世界に通用する確かな学位の質保証システムについては、修了審査に当たり、定量化が困難な人間力を評価するためにスコアリング・ルーブリックを用いて俯瞰力や行動力などの到達目標達成度を数量化する試みを導入するなどの努力が見られ、着実に修了生を出している点は十分に評価できる。

事業の定着・発展については、大学としての取組の姿勢も明確であり、「トップリーダー教育院」の構想など、将来的な大学での位置づけがなされている点は十分に評価できる。